

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》  
相談事例 No.1  
区分 標準予防策・感染経路別予防策

【質問】

標準予防策としてガウン(个人防护具)をどのように使い分けしたらよいでしょうか？

【回答】

米国 CDC の「医療現場における隔離予防策のためのガイドライン 2007」では、感染性物質によるケア実施者の皮膚やユニフォームの汚染を予防するために、袖付きガウンの着用が推奨されています。また、同じ患者に繰り返し接触する場合でもガウンは再使用しないとされており、1 回ごとの廃棄が推奨されています。ただし、コストや廃棄物処理などの問題があるため、実際のところ、すべての場面においてガウンが着用できるとは限らないかもしれません。その場合、代替品としてエプロンが用いられ、その使い分けについてマニュアルなどに記載する必要があります。

なお、使い分けの一例としては、第一選択をエプロンとし、標準予防策として袖付きガウンが必要な場合は、①救急外来での外傷措置、②広範囲熱傷のガーゼ交換、③感染創部に対する多量の洗浄液を使用した洗浄、④血液が大量に飛散する可能性のある処置、⑤大量の下痢のおむつ交換、⑥鋼製小物、内視鏡などの器材の用手洗浄時、⑦その他、感染性物質による腕の汚染が予期されるとき、といった場면을想定されてはいかがでしょうか。また、接触予防策として、角化型疥癬患者のケアなどでもガウンが必要となります。

《参考文献等》

1) 医療現場における隔離予防策のための CDC ガイドライン. メディカ出版, 2007 (P.78)